

3. 日本語教育学位取得プログラム

本プログラムは、高度の専門性と国際性を備えた日本語教育者を養成することを目的として、2005年4月に言語社会研究科のなかに開設されたプログラムである。日本語教育の専門的な知識や技能にくわえ、日本語学の素養、日本の社会と文化に関わる幅広い知識を身につけるために、当留学生センター、言語社会研究科、国立国語研究所の3者が連携する連携講座となっている。2007年4月には定員4名の博士後期課程のプログラムも開講される予定である。

日本語教育学位取得プログラムの概要

定員 10名

学位 学術（修士）

授業担当者

コアスタッフ（演習を担当し、指導教員になれる教員）

留学生センター：石黒圭、五味政信、鶴田庸子

言語社会研究科：秋谷治、イ・ヨンスク、坂内徳明

国立国語研究所：井上優、前川喜久雄、山崎誠

サポートスタッフ（講義を担当する教員）

留学生センター：庵功雄、西谷まり、横田雅弘

経済学研究科：今村和宏

法学研究科：三枝令子（本年度休講）

非常勤講師：松岡弘

国立国語研究所：田中牧郎

2006年度本プログラム入学試験志願者・合格者内訳

	受験者	合格者	入学者
一般	24	3	2
留学生	26	4	3
日本語教育経験者	13	4	4
合計	63	11	9

2006年度本プログラム入学者名簿

カテゴリ	氏名	性別	国籍	指導教員
一般	松田まどか	F	日本	秋谷治
一般	荒川英紀	M	日本	鶴田庸子

3. 日本語教育学位取得プログラム

留学生	玄英蘭	F	中国	鶴田庸子
留学生	劉時珍	F	中国	石黒圭
留学生	趙順姫	F	中国	イ・ヨンスク
日本語教育経験者	筒井千絵	F	日本	石黒圭
日本語教育経験者	渋谷実希	F	日本	五味政信
日本語教育経験者	千葉香代子	F	日本	前川喜久雄
日本語教育経験者	長山由美子	F	日本	五味政信

2006 年度夏学期時間割

	1	2	3	4	5
月		演習：五味	演習：鶴田	演習：石黒	
火		日本語学講義Ⅱ ：庵	日本語教育学講義Ⅰ ：西谷		
水		日本語学講義Ⅳ ：今村	日本語教育学講義Ⅵ ：松岡		
木	演習：井上		比較文化学講義Ⅰ ：坂内	演習：坂内	演習：イ
金	演習：秋谷	日本語教育学講義Ⅲ ：横田	演習：山崎	演習：前川	

2006 年度冬学期時間割

	1	2	3	4	5
月		演習：五味	演習：鶴田	演習：石黒	
火		日本語学講義Ⅲ ：庵	日本語教育学講義Ⅱ ：西谷		
水					
木	演習：井上	日本語学講義Ⅰ ：田中	比較文化学講義Ⅱ ：坂内	演習：坂内	演習：イ
金	演習：秋谷	日本語教育学講義Ⅳ ：横田	演習：山崎	演習：前川	

表1 日本語教育学位取得プログラム科目(言社研・国語研科目は除く)

科目(担当教員)	コマ数	授業内容・到達目標	時期・時間数
日本語学講義Ⅱ 教育文法研究(庵)	1コマ /週	現代日本語の文法を、文法カテゴリ別に概説する。Ⅱでは1文内の現象、とくに単文を中心に扱う。	夏学期開講 30時間
日本語学講義Ⅲ 文章・談話研究(庵)	1コマ /週	現代日本語の文法を、文法カテゴリ別に概説する。Ⅲでは複文、談話・テキストを中心に扱う。	冬学期開講 30時間
日本語学講義Ⅳ 専門語彙教育研究(今村)	1コマ /週	社会科学分野における日本語の語彙の特徴と多様性を概観し、分析法、およびその教材化の方法、指導法を検討する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅰ 日本語教授法研究(西谷)	1コマ /週	教育活動を研究する方法を考える。特に量的研究を扱う。また、授業の一環として授業見学・マイクロティーチングを行う。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅱ 日本語教授法研究(西谷)	1コマ /週	質的研究法を概観するほか、教材研究・教壇実習を行う。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅲ 異文化間理解教育研究(横田)	1コマ /週	マクロな視点から留学交流政策を概観した上で、留学生アドバイザー・カウンセリングの意義と方法を検討する。	夏学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅳ 異文化間理解教育研究(横田)	1コマ /週	留学生の学習、生活、心理等の支援の方法を学ぶことを通して、日本語教育の異文化間教育としての意義を考える。	冬学期開講 30時間
日本語教育学講義Ⅴ 教育評価法研究(三枝)	1コマ /週	学習の到達度を正確に測定する尺度として、学習者の学習意欲を高める道具として、試験・評価のあり方を検討する。	2006年度 休講
日本語教育学講義Ⅵ 言語教育史研究(松岡)	1コマ /週	コメニウスを中心とした言語教育史の観点から日本語教育を捉え直し、その実践の歴史的、普遍的意味を考える。	夏学期開講 30時間
演習 教育文法・文章理解研究(石黒)	1コマ /週	教育文法という観点を重視しつつ、文章・談話研究につながる文法的な現象について調査し、発表を行う。	通年開講 60時間
演習 日本語教育法研究(五味)	1コマ /週	日本語教育の実践的な方法について、とくに初級の学習者を対象とする直接法を中心に、その方法を議論する。	通年開講 60時間
演習 会話分析・待遇表現研究(鶴田)	1コマ /週	日本語のポライトネスについて考察し、日本語教育への応用の道を探る	通年開講 60時間

3. 日本語教育学位取得プログラム

【秋季教育実習】

実施日：2006年8月30日（水）～9月15日（金）の13日間

実施場所：本センター秋季集中日本語コース（Aクラス）

内容：65時限：1時限45分

教壇実習：6時限（中級前半クラス）

授業見学：59時限（中級前半クラス、上級前半クラス、上級後半クラス）

実習指導：45時限（教案指導、授業評価など）

参加者：荒川英紀、張志剛、趙順姫、筒井千絵、松田まどか、舞木右、劉時珍、
長山由美子

担当教員：西谷まり、中川まち子、北岡幹子

【春季海外教育実習】

実施日：2006年2月22日（木）出発～3月11日（日）帰国の18日間

うち、事前指導が2月23日、教壇実習日が2月26日～3月9日

実施場所：北京大学外国語学院日本語言文化学部（学部2年生対象）

使用教科書：総合日本語第4冊

そのほか、人民大学での授業見学、北京日本学研究中心における学生交流、
一橋大学北京事務所・如水会北京支部への訪問をおこなった。

参加者：千葉香代子、趙順姫、松田まどか、劉時珍

引率・指導教員：西谷まり

※なお、本教育実習実施にあたり、大金（中国）投資有限公司より実習生全員に奨学金
を支給していただいた。記して感謝申しあげる。

（文責：石黒圭、西谷まり）